

1

古生物のサイズが実感できる！

リアルサイズ古生物図鑑

土屋健 著 群馬県立自然史博物館 監修 技術評論社

著者
コメント

部活動や勉強に疲れた時、肩の力をぬいて楽しめる古生物本は
いかがですか？約5億4100万年から約2億5200万年前の
「古生代」に実在した動植物。そのサイズ感を
直感的に味わうことができるこの本で、青春の
ひとときをすごしてくれるのなら、著者として
とても嬉しいです。一人でニヤニヤ、友人や
恋人と一緒にワイワイ。ぜひ、楽しんでください。



群馬県の高校図書館司書が選んだ
イチオシ本 2018

2

そして、バトンは渡された

瀬尾まいこ 文藝春秋

著者
コメント

高校図書館のいちおし本、2位に選んでいただき、
ありがとうございます。
何をしている時もキラキラとまぶしい高校生の
皆さんにこの本を手にとっていただける機会に
なるかと思うととてもうれしいです。
ありがとうございました。



群馬県の高校図書館司書が選んだ
イチオシ本 2018

3

みえるとか みえないとか

ヨシタケシンスケ さく 伊藤亜紗 そうだん
アリス館

著者
コメント

この度は選んでいただき、本当にありがとうございます。この本が、自分と他人の違う
ところと同じところを認識する難しさ、大切さ、面白さを考えるきっかけになってくれたら、
とても嬉しいです。もともとなった伊藤先生の本も、ぜひ読んでみて下さい。
(ヨシタケシンスケさんより)

「ふつう」はむずかしい。いや「ふつう」なんてないのかも。目が三つある
宇宙人からすれば我々は「目が一つ欠けている不完全な生物」だろうし、
空を飛べる鳥からすれば「地面に縛られた不自由な動物」だ。障害って
何？健康って何？あなたの体について、そしてあなたと違う体をもった人
とのつきあい方について考えるきっかけになれば。(伊藤亜紗さんより)



群馬県の高校図書館司書が選んだ
イチオシ本 2018

4

黒板アート甲子園作品集

高校生たちの消えない想い
日学株式会社 総監修 日東書院本社

編集者
コメント

毎日眼にしている黒板が、世界でたったひとつのキャンパスに
なる。これが黒板アート甲子園の根幹です。高校生たちが独自の
発想でさまざまに表現した作品は、見る人に
それぞれの青春を思い起こさせてくれる
力強さがあるものと信じています。
皆さんにも楽しんでいただけますように！



群馬県の高校図書館司書が選んだ
イチオシ本 2018

5

愛なき世界

三浦しをん 中央公論新社

著者
コメント

この本の主人公は、植物の研究をしています。理系の勉強は
苦手だと感じているひと（私もそうです！）にも、
おもしろく読んでいただけるよう心がけて書きました。
身近な存在だけど謎がいっぱいな植物の世界を、
お楽しみいただければ幸いです。
おいしいご飯も登場しますよ。



群馬県の高校図書館司書が選んだ
イチオシ本 2018

6

AI vs. 教科書が読めない子どもたち

新井紀子 東洋経済新報社

著者
コメント

みなさんはAIやロボットが活躍する時代に大人になって社会に
参加していきます。そのとき、あなたはAIやロボットを使い
こなす側でしょうか。それともAIやロボットに使われる側にな
ってしまうのでしょうか。それを左右するのは、基礎的な
読解力と人間＝ホモサピエンスとしての生きる力です。
できるだけ多くの方が、前者になることを願って
この本を書きました。



群馬県の高校図書館司書が選んだ
イチオシ本 2018

7

風に恋う

額賀滯 文藝春秋

著者
コメント

『風に恋う』は埼玉を舞台に吹奏楽に青春をかける
高校生と、彼等を指導するコーチの物語です。埼玉
県立越谷北高校を取材したことが、物語の方向性を
決定づけることになりました。だからこそ、登場
人物達と同じ埼玉で暮らす高校生の皆さんにぜひ
読んでいただきたいです。



群馬県の高校図書館司書が選んだ
イチオシ本 2018

8

青少年のための小説入門

久保寺健彦 集英社

著者
コメント

イチオシ本に選んでいただき、ありがとうございます！
この作品は、まったく境遇の違う青年と少年がタッグを組み、
おもしろい小説を書くために悪戦苦闘する物語です。
小説に限らず、読書には、だれかの人生を変えてしまう
パワーがあります。
どんなジャンルでも構いません。まずは一冊、気になる
本を読むところから始めてみませんか？



群馬県の高校図書館司書が選んだ
イチオシ本 2018